

農作物病害虫発生現況情報（8月） 水稻編

1 いもち病

(1) 葉いもち

8月上旬の巡回調査（全県：176 圃場）では、発生圃場率、上位3葉における発生圃場率ともに、平年より低かった（図1、2）。

(2) 穂いもち

8月下旬の巡回調査（74 圃場、沿岸部除く）では、発生圃場率は平年より低かった（図3）。

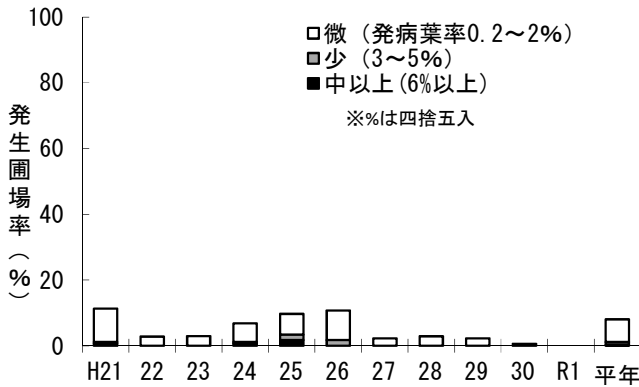


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移(8月上旬)

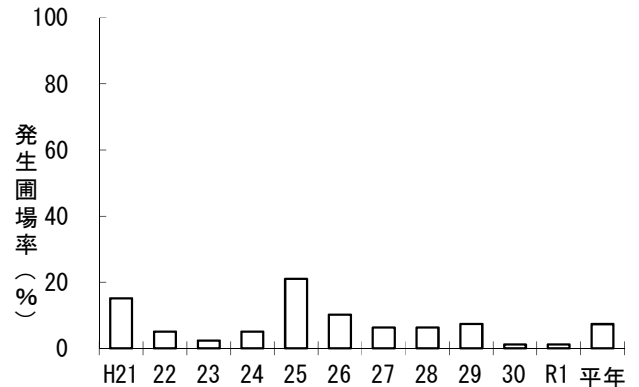


図2 上位3葉における葉いもち発生圃場率(8月上旬)

(参考) 病害虫防除員による葉いもち調査結果

地方協議会	調査日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	調査株数 ¹⁾	発病株率 ¹⁾ (%)
江刺	7/31	60	23.3	6,000	1.3
胆沢	7/23~30	142	23.9	5,550	3.1
花巻	8/2	11	0.0	-	-
二戸	8/7	66	0.0	6,600	0.0
久慈	8/8	45	11.1	4,500	2.9

1) 発病株数を調査した地域のみ集計

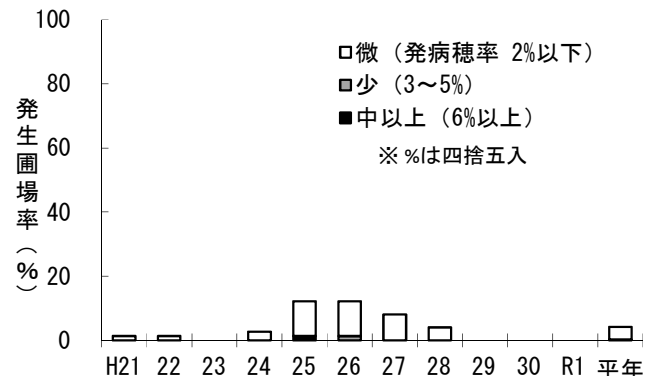


図3 穂いもち発生圃場率の年次推移(8月下旬)

2 紋枯病

(1) 8月上旬、下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図4、5）。

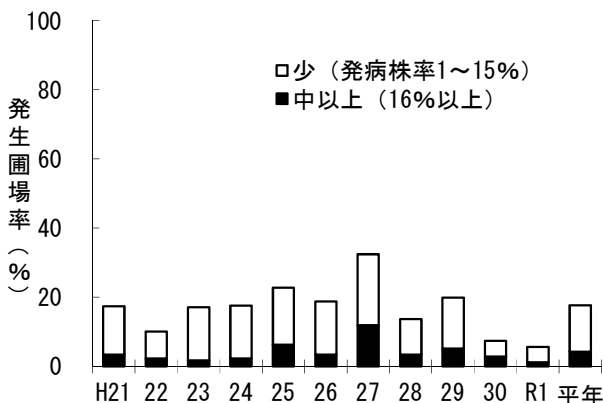


図4 紋枯病発生圃場率の年次推移(8月上旬)
※病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

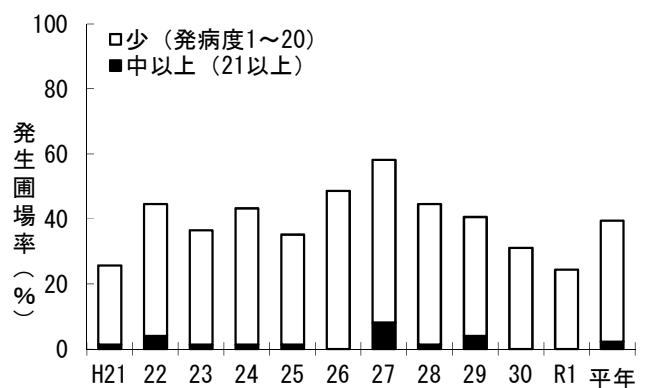


図5 紋枯病発生圃場率の年次推移(8月下旬)
※病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

3 稲こうじ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図6)。

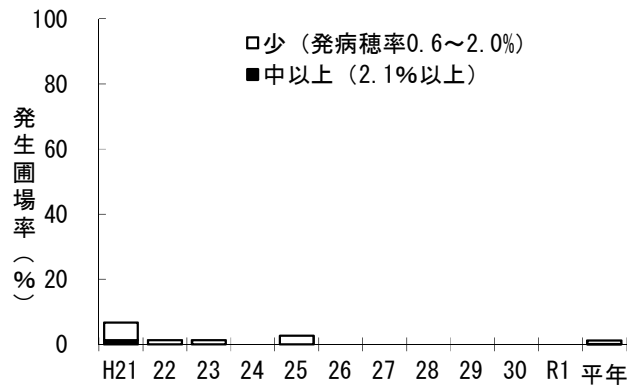


図6 稲こうじ病発生圃場率の年次推移(8月下旬)

4 その他病害

(1) 8月下旬の巡回調査では、葉鞘褐変病の穂における発生は確認されなかった。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率、圃場あたり虫数ともにほぼ平年並であった(図7)。
- (2) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率、圃場あたり虫数ともにほぼ平年並であった(図8)。
- (3) 基準圃場(北上市成田、イタリアンライグラス)におけるすくい取り調査では、8月第3半旬にアカスジカスミカメ成虫の発生ピークが見られた(図9)。

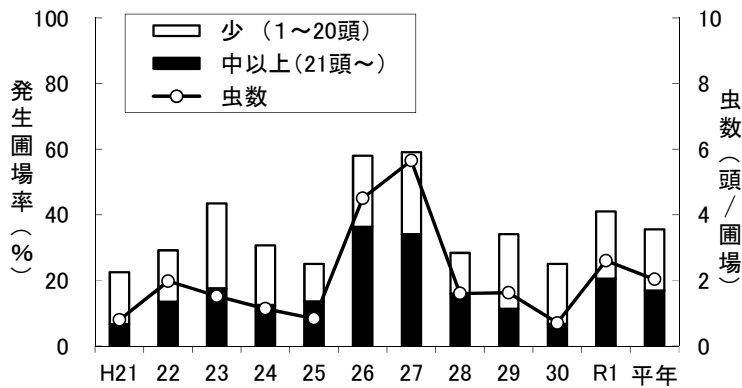


図7 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移 (8月上旬、本田すくい取り、往復20回振)

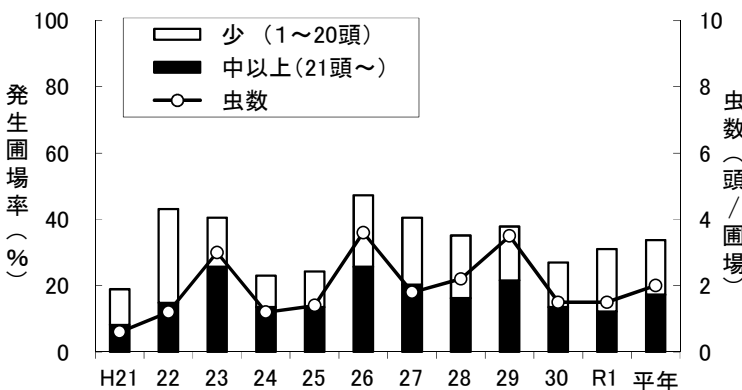


図8 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

(参考) 病害虫防除員による斑点米カメムシ本田すくい取り調査結果

地方協議会	調査日	調査筆数	発生筆数	発生圃場率 (%)
江刺	7/31	30	5	16.7
胆沢	7/26~30	87	24	27.6
花巻	7/28	11	2	18.2
二戸	8/7	66	24	36.4

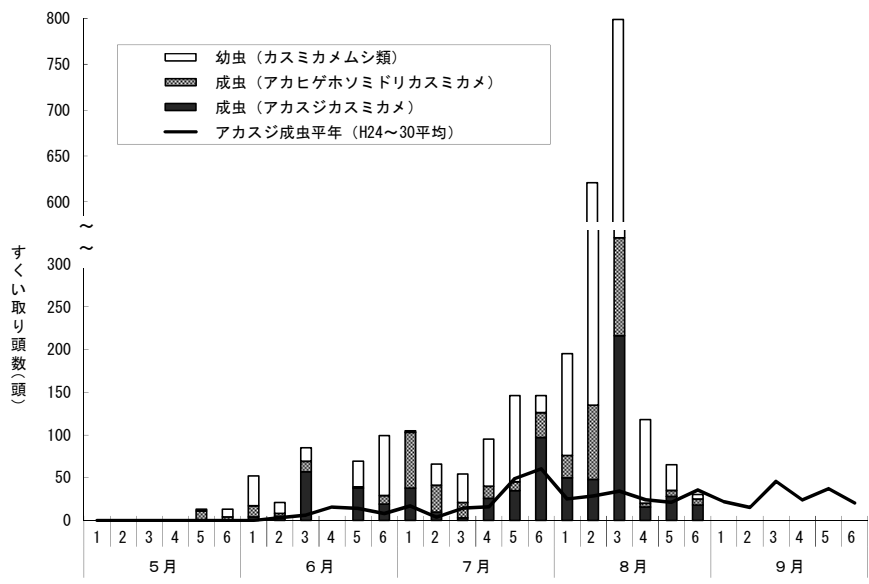


図9 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）における斑点米カメシ類の発生推移（すくい取り往復20回振）

6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

8月下旬のすくい取り調査における発生圃場率は、ほぼ平年並であった（図10左）。

(2) ヒメトビウンカ

8月下旬のすくい取り調査における発生圃場率は、平年よりやや高かった（図10右）。

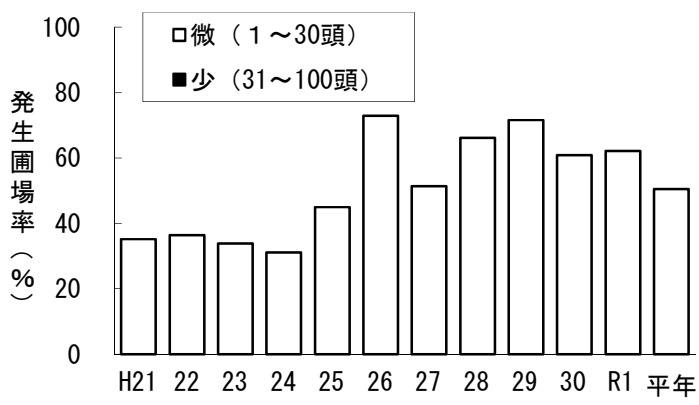
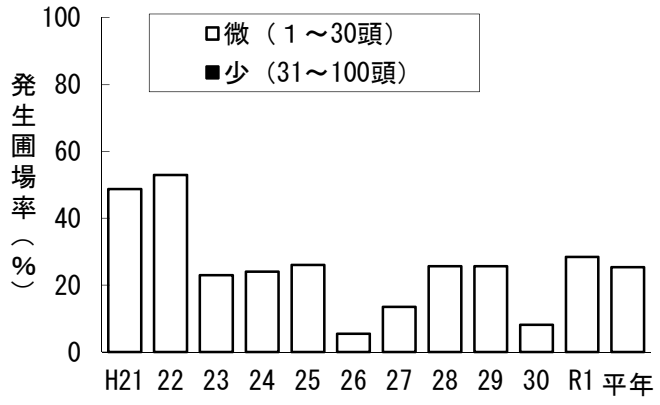


図10 ウンカ類の発生圃場率の年次推移（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、8月下旬、本田すくい取り、往復20回振）

7 イナゴ類

(1) 8月下旬のすくい取り調査における発生圃場率は、平年より高かった（図11）。

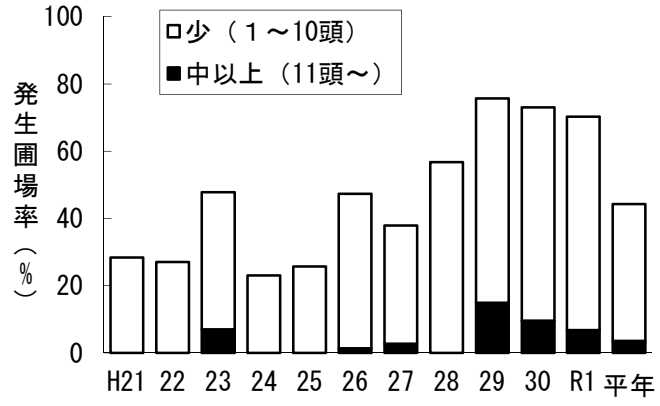


図11 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移（8月下旬、本田すくい取り、往復20回振）

8 ツマグロヨコバイ

(1) 8月のすくい取り調査では確認されなかった。

農作物病害虫発生現況情報（8月） りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、ふじは平年より高く、王林は平年並であった（図1）。
- (2) 発生度は、ふじはやや高く、王林は平年並であった（図2）。

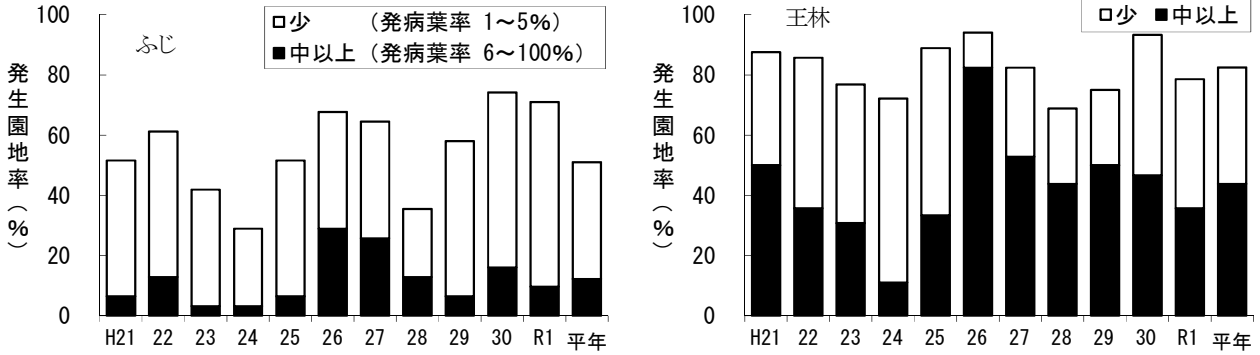


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（左図：ふじ、右図：王林、8月後半、徒長枝上位10葉）

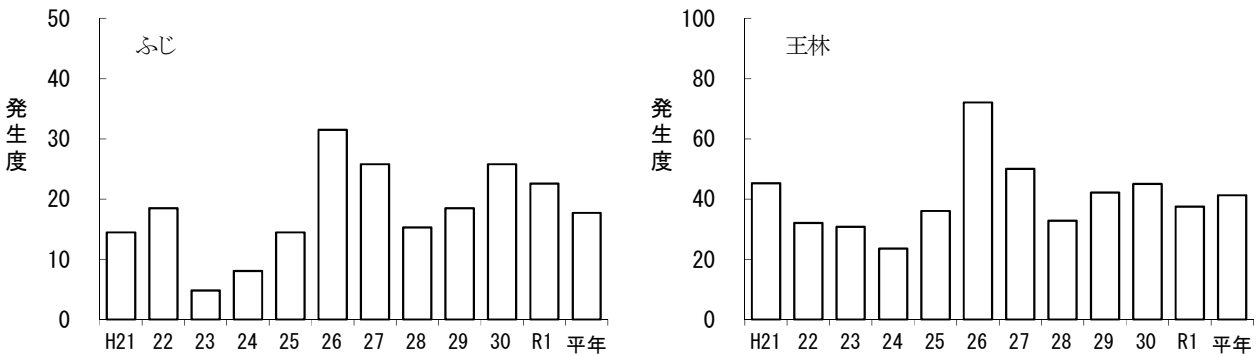


図2 斑点落葉病の発生度の年次推移（左図：ふじ、右図：王林、8月後半、徒長枝上位10葉）

※発生度：(甚×4+多×3+中×2+少×1) / (4×調査園地数) ×100

2 褐斑病

- (1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より高かった（図3）。
- (2) 7月後半から8月前半にかけて発生程度が高い園地が増加した（図4）。

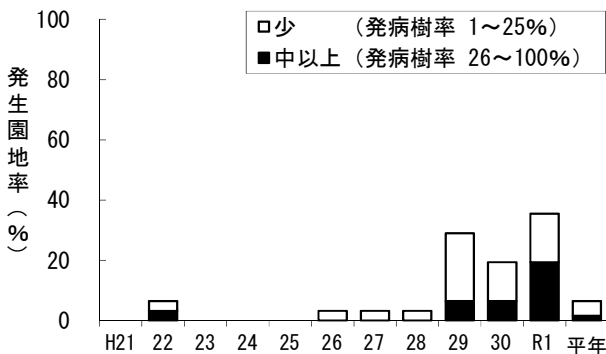


図3 褐斑病の発生園地率の年次推移（8月後半）

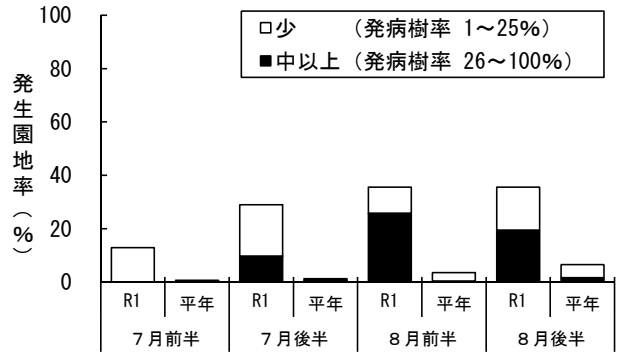


図4 褐斑病の発生園地率の時期別推移

3 黒星病

- (1) 8月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より高く、前年並みであった(図5)。
- (2) 地域別では、県北部で前年並みに発生園地率が高かったが発生程度が高い園地はみられなかった。県中部の一部の園地で発生程度が高かった(図6)。

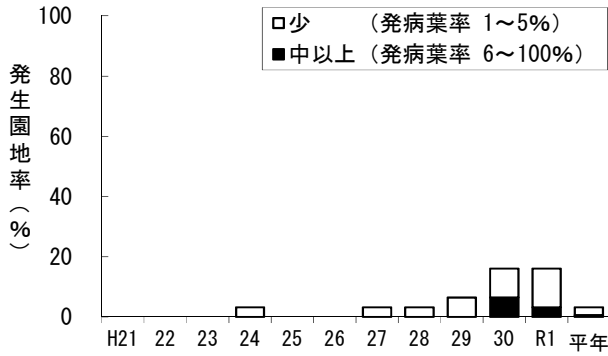


図5 黒星病の発生園地率の年次推移
(8月後半、徒長枝葉)

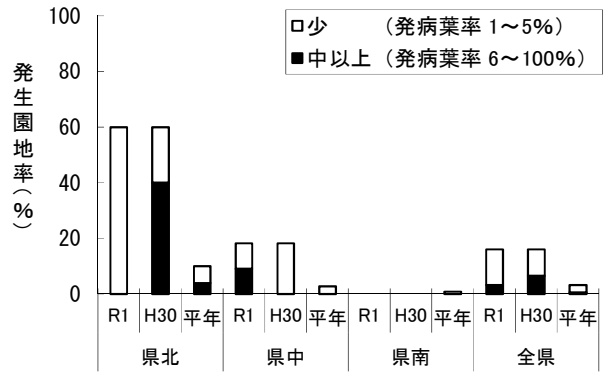


図6 黒星病の地域別発生園地率
(8月後半、徒長枝葉)

4 リンゴハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率および発生度は、平年よりやや高かった(図7、8)。
- (2) 目通りの時期別発生園地率は、7月は平年並であったが、8月は平年よりやや高かった(図9)。

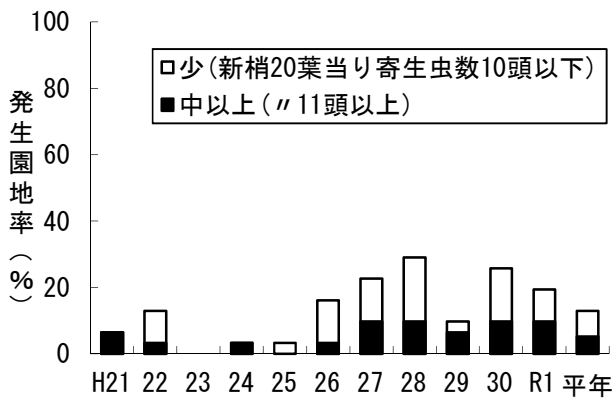


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (8月後半、目通り)

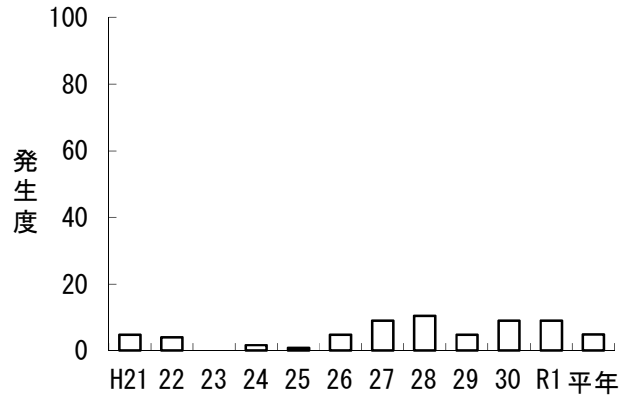


図8 リンゴハダニの発生度の年次推移 (8月後半、目通り)

※発生度: (基×4+多×3+中×2+少×1) / (4×調査園地数) ×100

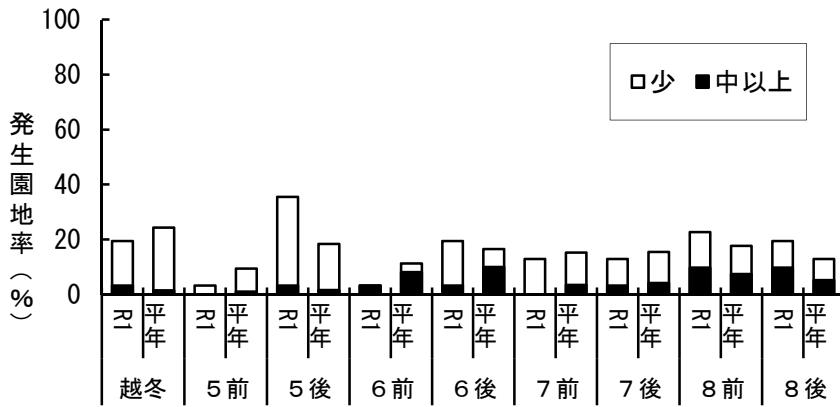


図9 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

5 ナミハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は、平年よりやや高かったものの発生度は平年よりやや低かった(図10, 11)。
- (2) 目通りの時期別発生園地率は、7月は平年よりやや低かったが、8月は平年よりやや高かった(図12)。

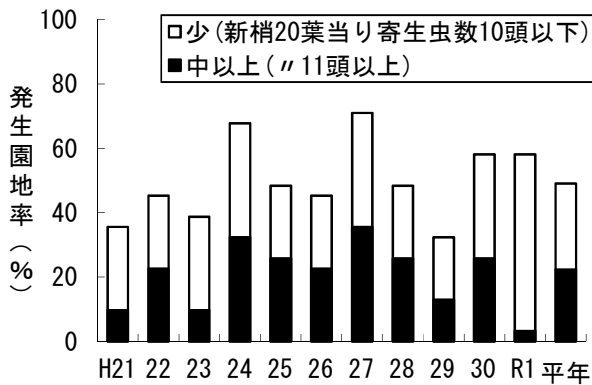


図10 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (8月後半、目通り)

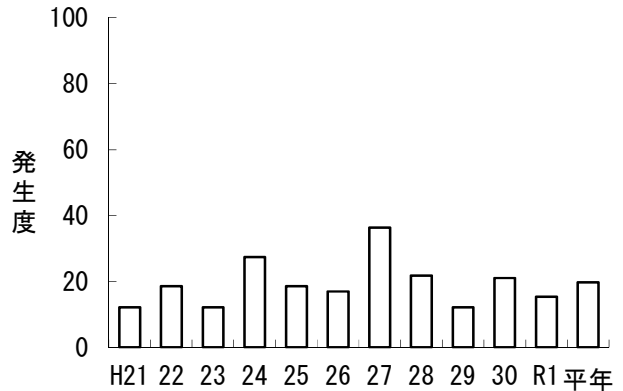


図11 ナミハダニの発生度の年次推移 (8月後半、目通り)

※発生度: (基×4+多×3+中×2+少×1) / (4×調査園地数) ×100

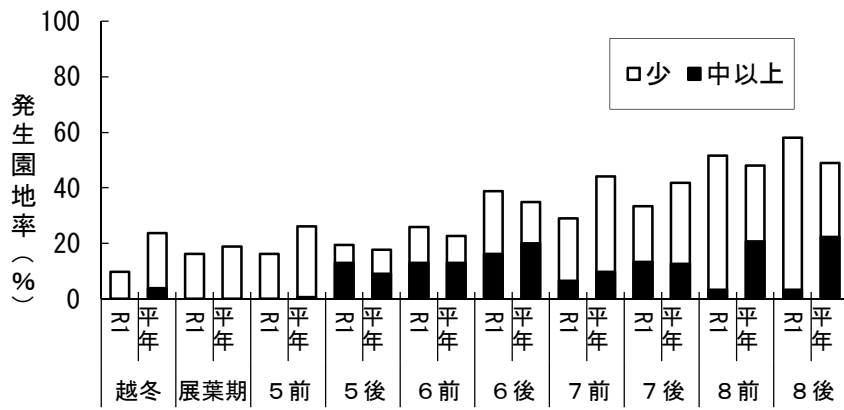


図12 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

6 ハマキムシ類

(1) 8月前半の巡回調査では、被害は確認されなかった (図13)。

7 キンモンホソガ

(1) 8月後半の巡回調査での第3世代の発生園地率は、平年より低かった (図14)。

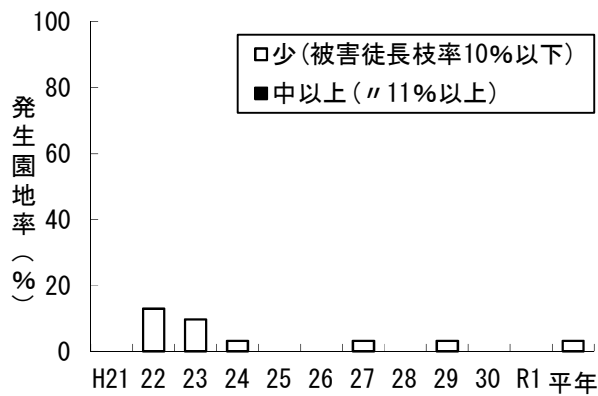


図13 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (8月前半)

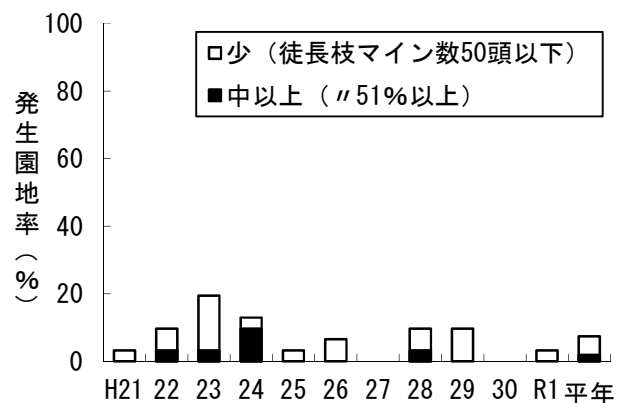


図14 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (8月後半)

8 果樹カメムシ類

(1) 8月後半の巡回調査での被害果発生園地率は、平年並であった (図15)。

(2) 被害果の時期別発生園地率は、7月は平年より高かったものの、8月は平年並であった (図16)。

(3) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、8月は平年を上回っているものの、7月下旬をピークに減少している (図17)。

(4) チャバネアオカメムシの基準圃場および現地の集合フェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なかった (図18)。

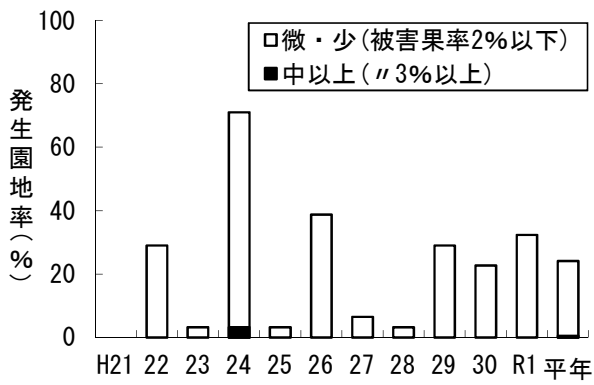


図15 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移（8月後半）

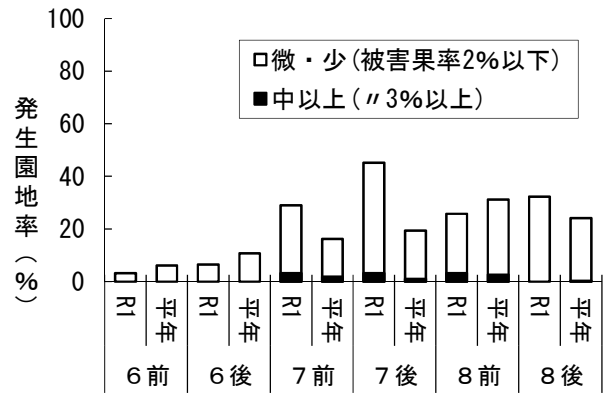


図16 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移

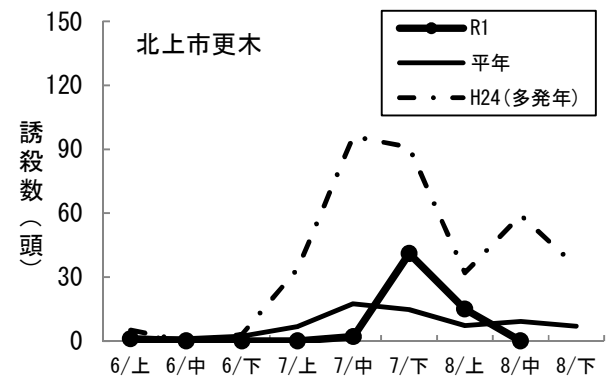
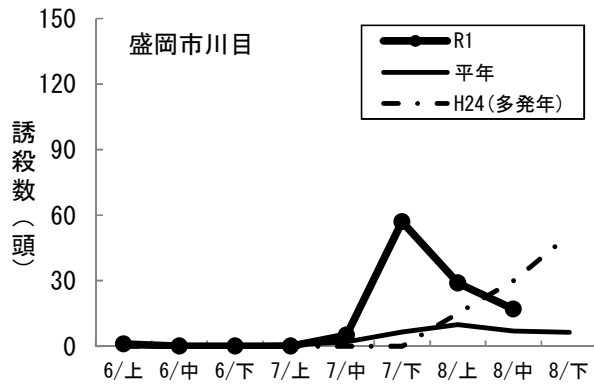


図17 クサギカメムシの子察灯への誘殺状況（左：盛岡市川目、右：北上市更木）
※盛岡市川目の8/中は8/11～18までの合計

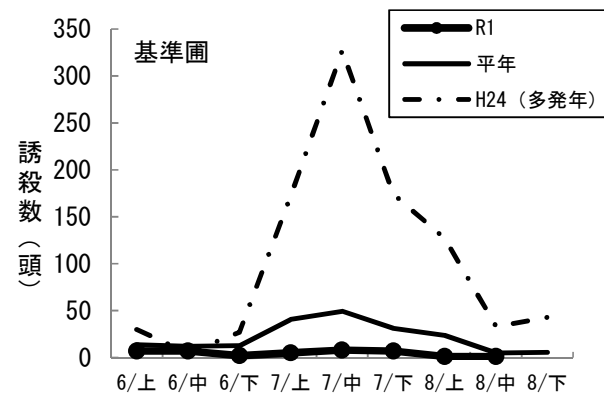
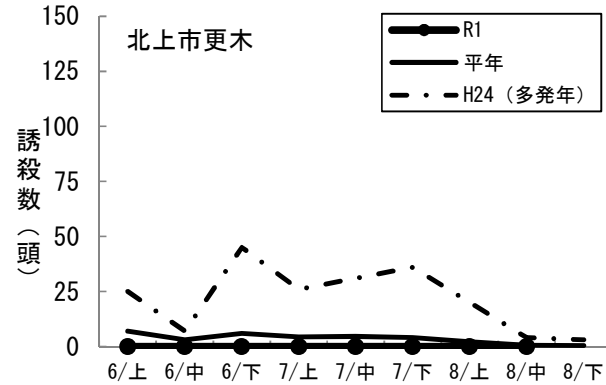
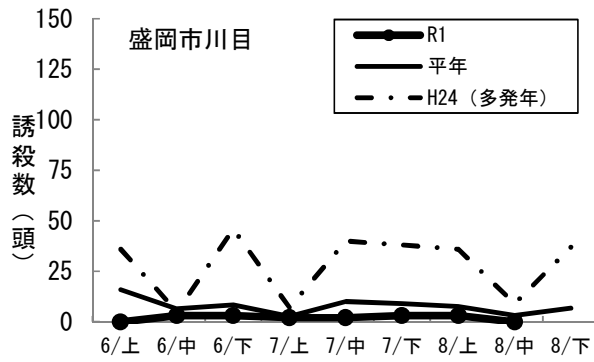


図18 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況
（左上：盛岡市川目、右上：北上市更木、左下：基準圃場（北上市成田・無防除））

農作物病害虫発生現況情報（8月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、程度の高い圃場は見られなかった(図1)。

2 うどんこ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図2)。

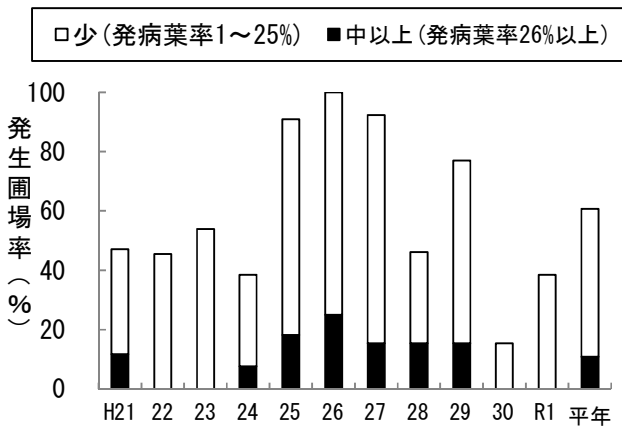


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

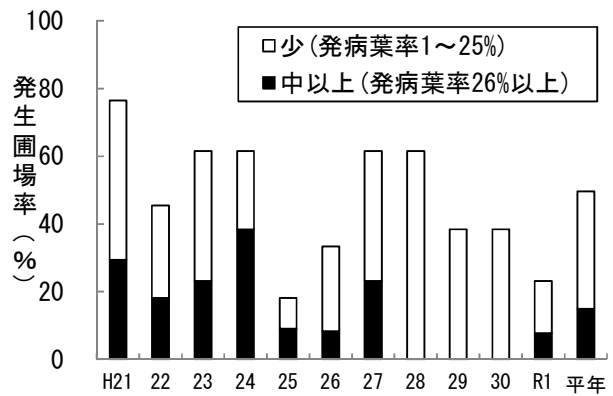


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

3 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図3)。

4 炭疽病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かったが、一部で程度の高い圃場もみられた(図4)。

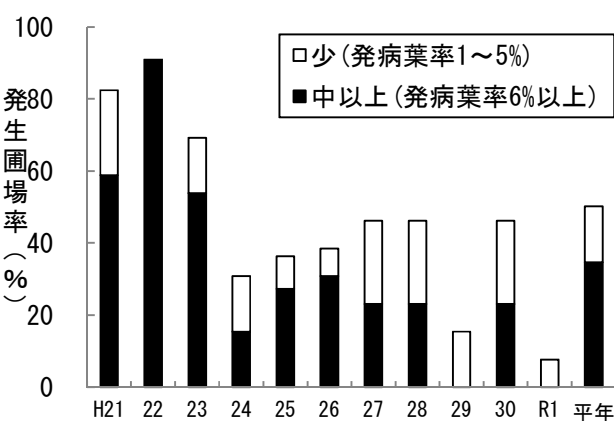


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

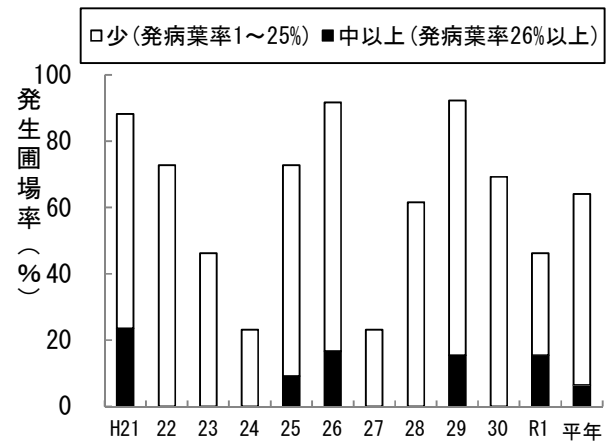


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

5 斑点細菌病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図5)。

6 黒星病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は見られなかった(図6)。

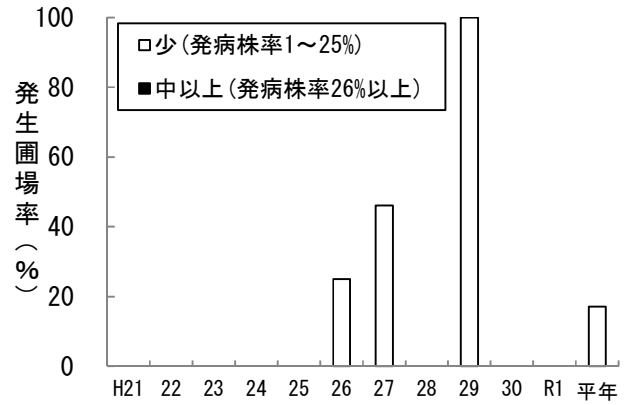
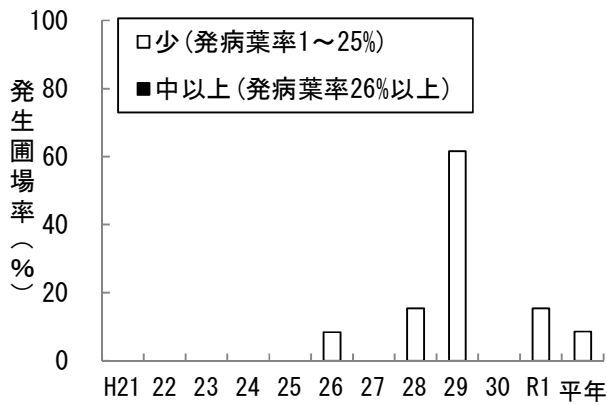


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

図6 黒星病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

7 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図7)。

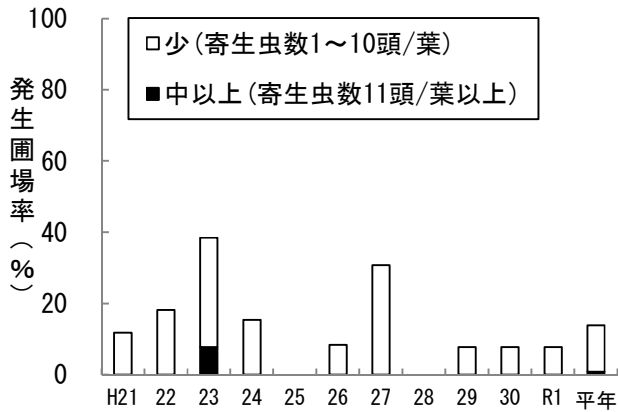


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（8月）キャベツ編

岩手県病害虫防除所

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多く推移した（図1）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多く推移した（図2）。
- (3) 8月中旬の巡回調査では、産卵圃場率、幼虫発生圃場率ともに平年より低かった（図3、4）。

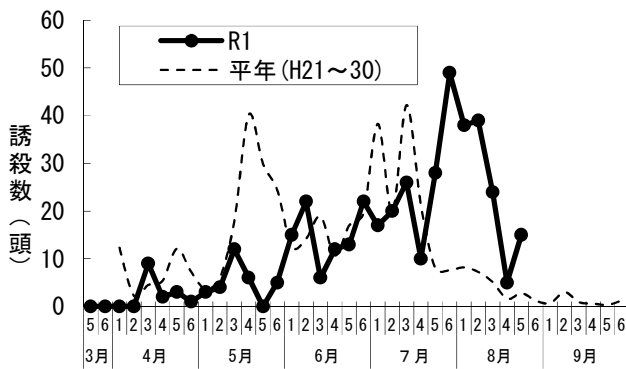


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

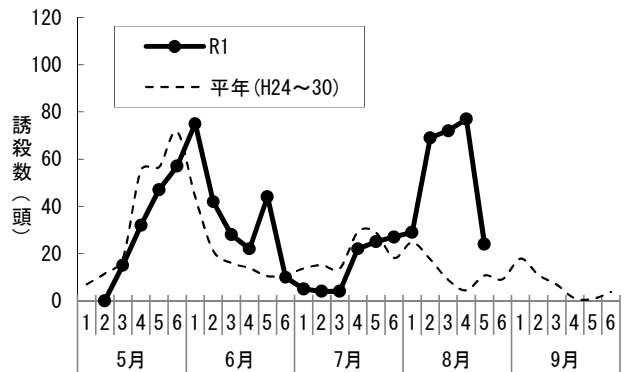


図2 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

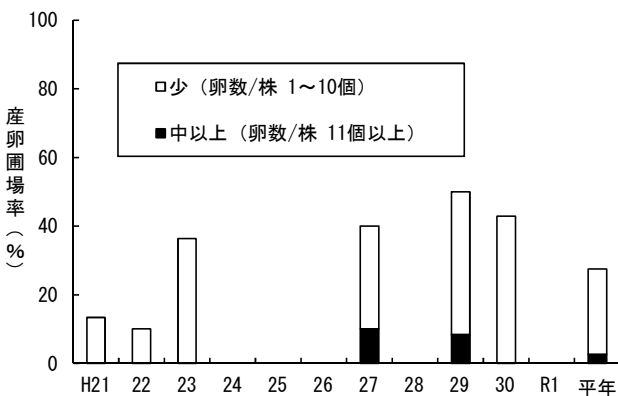


図3 コナガ産卵圃場率の年次推移（8月中旬）

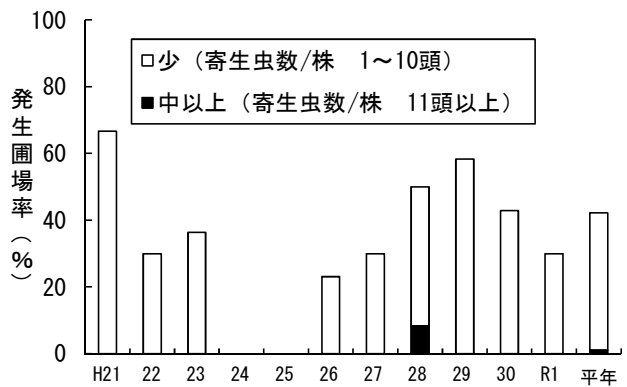


図4 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図5）。
 (2) 8月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年より低かった（図6）。

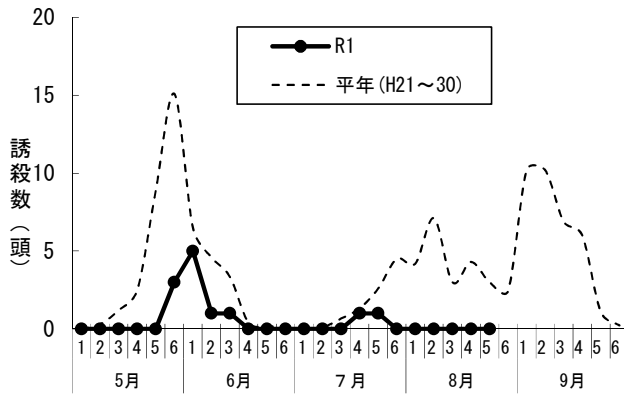


図5 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

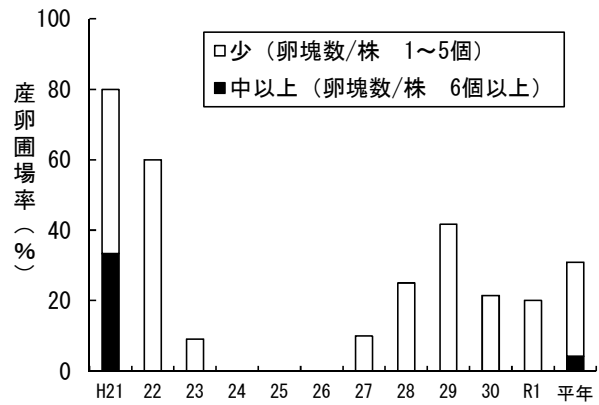


図6 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（8月中旬）※H24、25は欠測

3 ウワバ類

- (1) 8月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図7）。

4 モンシロチョウ

- (1) 8月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図8）。

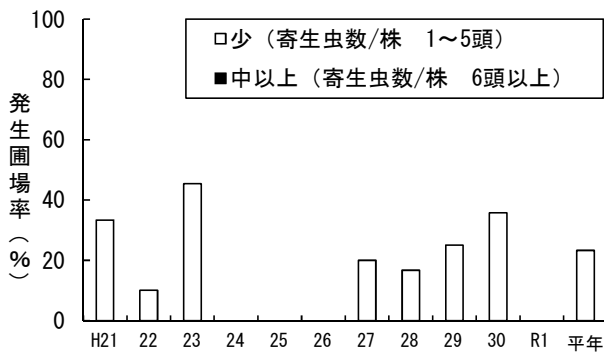


図7 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）※H24、25は欠測

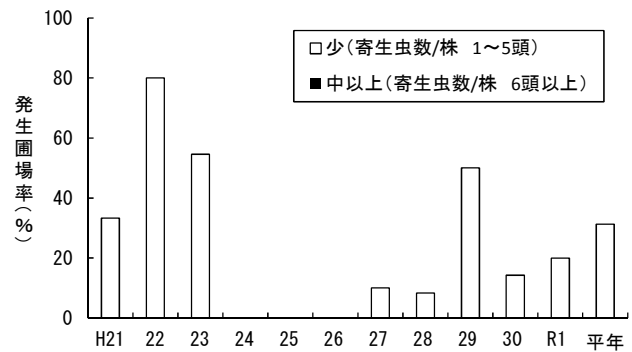


図8 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（8月中旬）※H24、25は欠測

農作物病害虫発生現況情報（8月） ねぎ編

1 さび病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図1）。

2 べと病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図2）。

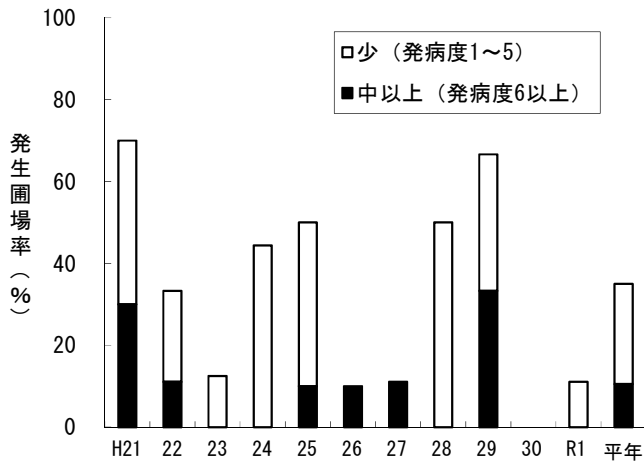


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

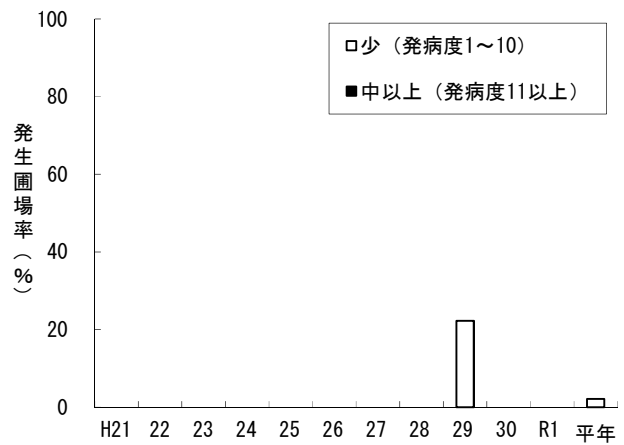


図2 べと病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

3 黒斑病、葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率はほぼ平年並であった（図3）。

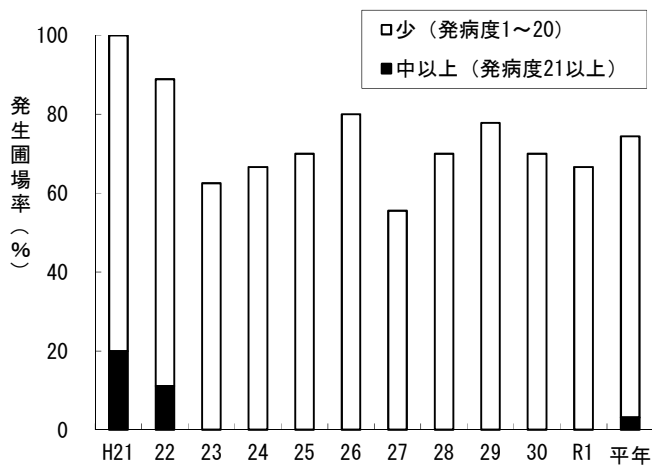


図3 黒斑病、葉枯病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

4 ネギコガ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった(図4)。

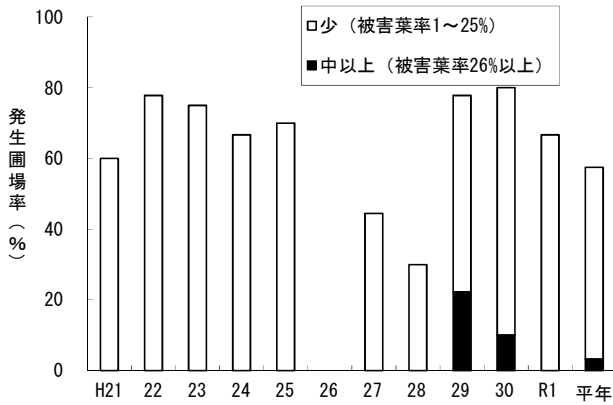


図4 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

5 ネギハモグリバエ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった(図5)。

(2) 6月下旬以降、被害程度は平年よりも高く推移している(図6)

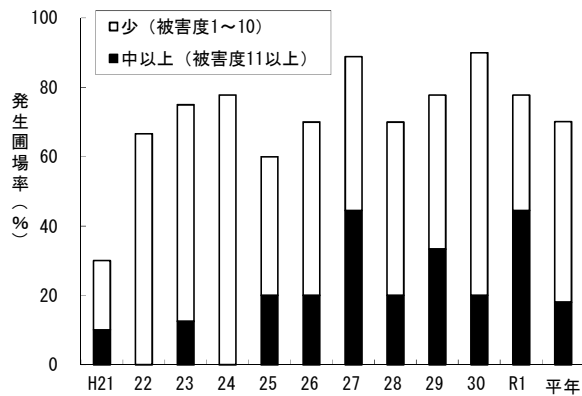


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

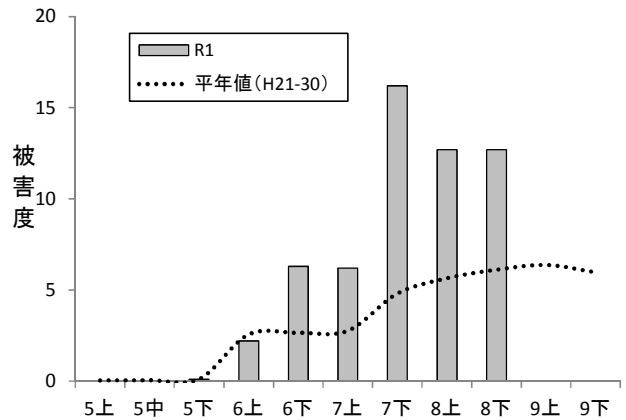


図6 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

6 ネギアザミウマ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図7)。

(2) 8月の被害度は、上旬では平年よりも低く、下旬では平年並であった(図8)。

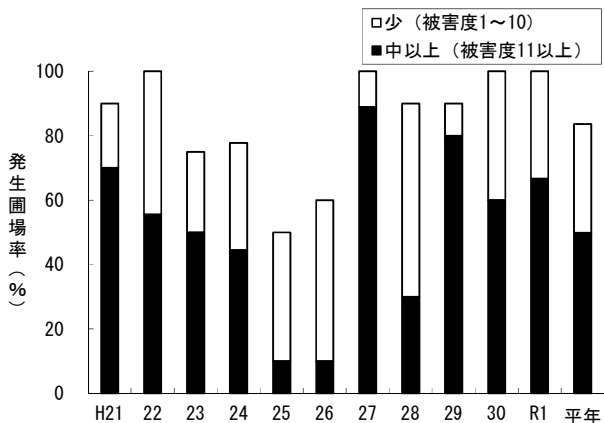


図7 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

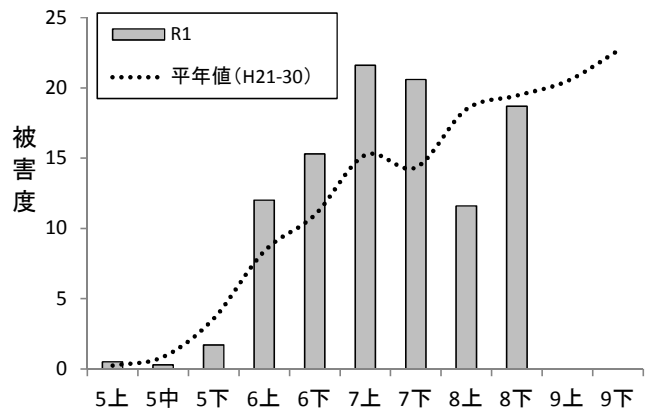


図8 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（8月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、採花部での発生圃場率も平年より低かった(図1)。

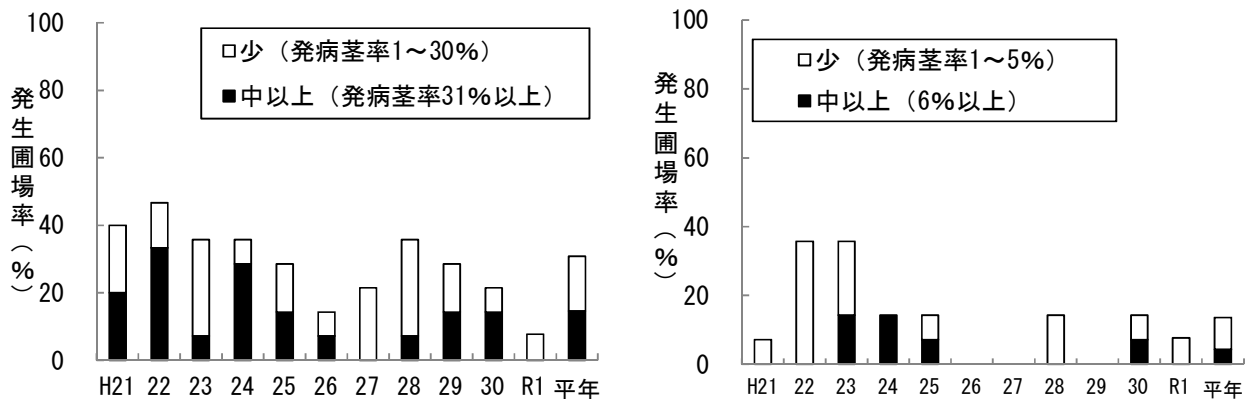


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、8月下旬）

2 褐斑病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(図2)。

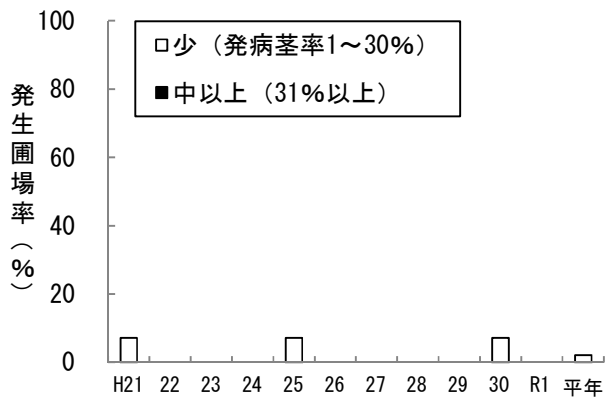


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（8月下旬）

3 花腐菌核病

(1) 8月第6半旬現在、子実体の発芽は確認されていない(表1)。

(2) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。

表1 近年の子実体IV型確認時期（月-半旬）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
八幡平市	9-6	9-1	8-6	8-6	9-1	8-4	8-6 [※]	未確認 [※]
西和賀町	-	9-2	-	8-5	9-2	-	-	未確認

※は普及センター調べ

4 ハダニ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率はほぼ平年並で、程度の高い圃場は見られなかった。(図3)。

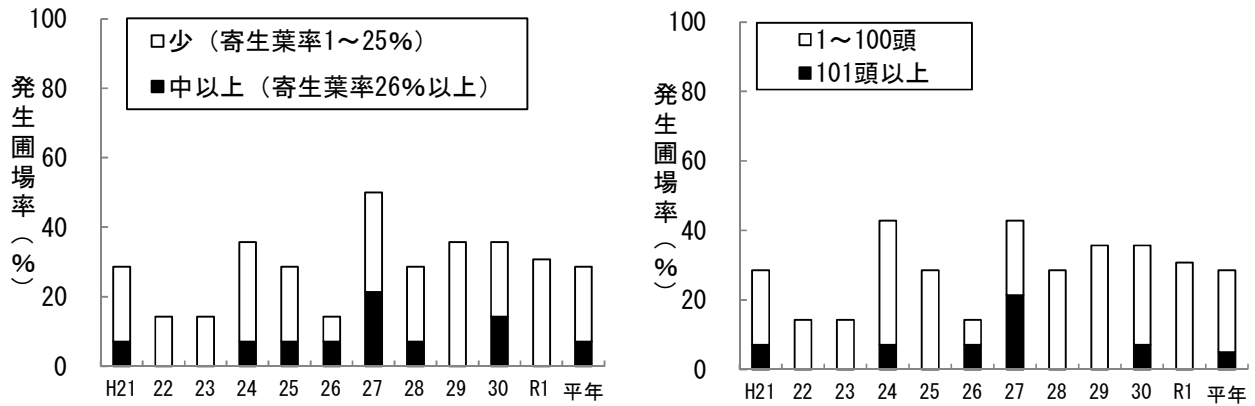


図3 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (左: 寄生葉率、右: 寄生虫数/80葉中、8月下旬)

5 リンドウホソハマキ

(1) 8月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率、生長部および茎部の被害発生圃場率は平年より低かった(図4)。

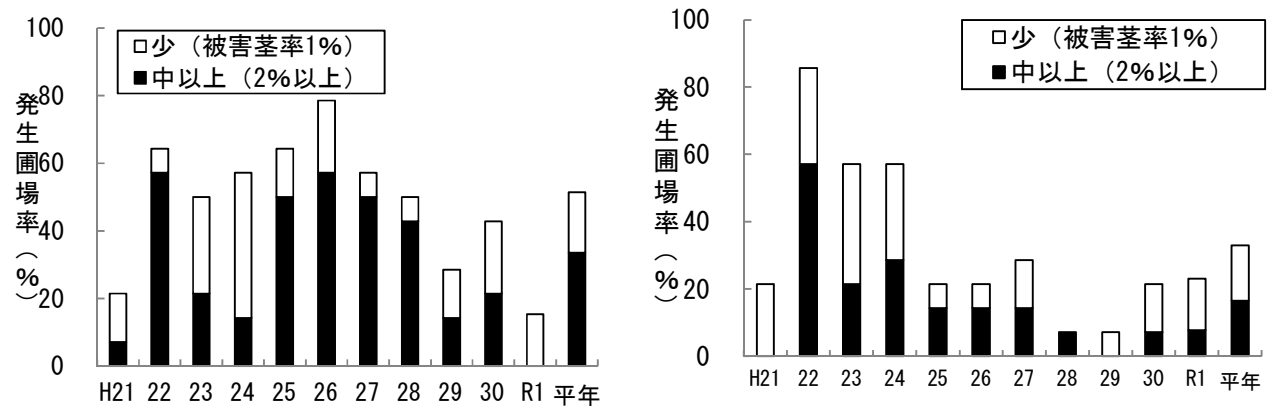


図4 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左: 潜葉痕、右: 生長部・茎部、8月下旬)

6 アザミウマ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率はほぼ平年並であった(図5)。

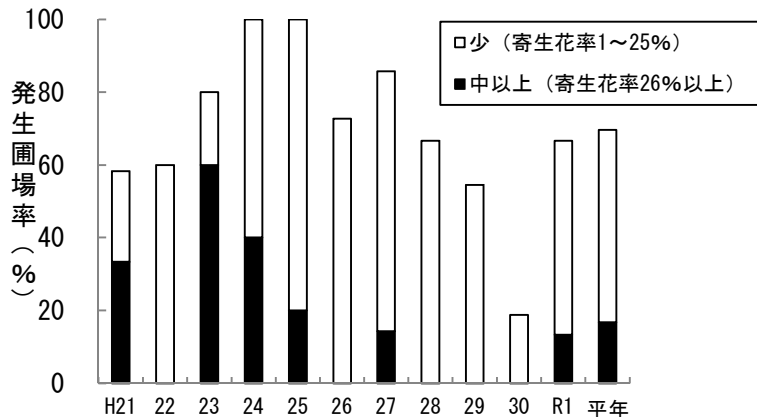


図5 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

7 アブラムシ類

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。